



Wi-Fi Analysis App

Wi-Fi解析アプリは、お使いの環境の無線チャンネルをスキャンし、Wi-Fiネットワーク上のデバイスやトラフィックに関するデータを検出・収集します。AirCheck G3の電源を入れるとWi-Fiの検出が始まり、チャンネルスキャンサイクルのたびに測定値が更新されます。

AirCheck G3は802.11a/b/g/n/ac/axテクノロジーに対応し、2.4GHzと5GHz、6GHzの帯域で動作します。AirCheck G3は、無線管理フレームで報告された、APおよびクライアントで使用されている802.11axメディアタイプ(Wi-Fi 6、6E)を検出し、表示することもできます。

Wi-Fiアプリは、無線環境を構成するさまざまな機器や要素の特性を一覧表示する画面を個別に備えています。以下のリンクをタップすると、記載されている画面の説明に直接移動できます：

- [チャンネルマップ](#)
- [チャンネル](#)
- [SSIDs](#)
- [APs](#)
- [BSSIDs](#)
- [クライアント](#)
- [Bluetooth](#)


Wi-Fiの解析と検出

Wi-Fi解析は、Wi-Fiテストポートを使用して、チャンネルをスキャンし、ワイヤレスネットワークの情報を取得します。Wi-Fiテストポートがリンクされている場合（Wi-Fi自動テストプロファイルを実行した後など）、**Wi-Fiアプリ**を開くとポートがリンク解除されスキャンが再開されます。

Wi-Fi解析は、**ディスカバリ**によって収集されたデータで強化されます。AirCheck G3がWi-Fiポートの1つを通じてネットワークにリンクされている場合、**ディスカバリ**は、IPアドレス、プロトコル、SNMPデータなど、ネットワークレイヤ3以上から情報を取得できます。

したがって、Wi-Fi解析が表示できる情報は、**SNMPコミュニティ・ストリングと認証情報、利用ディスカバリポート、拡張レンジ、デバイスヘルステスト**など、設定されたディスカバリ設定にも依存します。（ユーザガイドの**ディスカバリ**を参照してください。）

Wi-Fiアプリ 一覧画面

Wi-Fiアプリの画面を切り替えるには、メニューアイコン  をタップ(または右スワイプ)して、左側のナビゲーションドロワーを開きます。



チャンネルマップ



チャンネル (39 active)



SSIDs (143)



APs (130)



BSSIDs (225)



クライアント (496)



Bluetooth (201)



一般設定





About

Wi-Fiアプリのナビゲーションドロワーには、AirCheck G3が検出した各無線コンポーネントのリアルタイムのカウント(括弧内)が表示されます。オプションをタップすると、対応する画面が表示されます。

NOTE: Wi-Fiの一般設定は、Wi-Fi画面を表示するためにスキャンするチャネルとバンドを制御します。

Wi-Fiアプリの一覧画面

チャンネルマップを除くWi-Fiアプリの画面は、ディスカバリアプリのメイン画面のように、検出されたアイテムの一覧を表示します。フィルタリング  することができ、異なる特性でリストを並べ替え 、ネットワークコンポーネントのカードをタップしてその詳細を表示します。

下図の例では、Wi-Fiアプリの共通機能でAPs画面を表示しています:

検出されたデバイスの総数 ディスカバリ更新

Wi-Fi - APs (127)

他のWi-Fiアプリ画面へ

フィルタ 信号強度 ソート

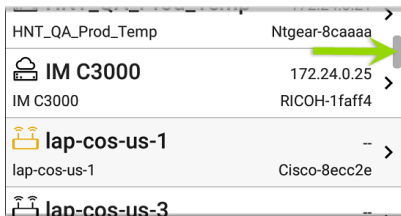
192.168.3.171 -36 dBm	-36 dBm	Buffalo
Buffalo:d42c46-c31a82 -36 dBm	-36 dBm	Buffalo
ciscoAP01ac1 -41 dBm	-41 dBm	Cisco
localAdm:62ebb6-a0165e -48 dBm	-48 dBm	localAdm

タッチするとカードの詳細が表示されます

自動テストや他のAirCheck G3画面と同様に、Wi-Fi解析のアイコンは色が変わり、**警告**または**不合格/エラー**の状態を表します。また、警告や故障に該当しない問題関連情報を示す**青色**、過去の問題が解決されたことを示す**緑色**のアイコンが表示されます。

NOTE: 問題設定を調整するには、ディスカバリアプリの左側のナビゲーションドロワーからアクセスします。ディスカバリアプリの問題設定は、Wi-Fiアプリにも適用されます。

Wi-Fi一覧画面や、長いリストを持つ他のアプリ画面は、高速スクロールに対応しています。リストの右側にあるスクロールバーハンドルをタッチしてドラッグすると、上下に素早くスクロールすることができます。



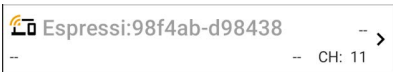
Wi-Fiリストカード

各カードに表示される情報は、選択したソート特性やAirCheck G3が検出できたデータによって変化します。例えば、チャネル一覧画面のカードは、チャンネル番号、周波数、接続AP、利用率を表示します。



左下のフィールドは、一覧画面が現在ソートされている特性を表示します。上の画像では、**チャンネルリストがクライアント数でソート**されています。

デバイスがグレイアウトしている場合、AirCheck G3はそのデバイスからの信号を検出しなくなりました。以下に示すクライアントカードは、**Espressi**というクライアントが現在検出できないことを示します。



AirCheck G3によって最後に検出されたことを意味する**最終検出**になった時刻は、デバイスの詳細画面に表示されます。



Wi-Fi - クライアント



Espressi:98f4ab-d98438

Wi-Fi プロービング・クライアント

アドレス

MAC: [Espressi:98f4ab-d98438](#)

802.11

チャンネル: 11

タイプ: --

信号強度: --

SNR: --

最終検出: 15:15:43 




RFとトラフィック統計

CH使用率: 39%

>

Wi-Fiアプリのフィルタリング

各Wi-Fi解析画面には、解析するネットワークコンポーネントのタイプに適した異なるフィルタオプションがあります。

Wi-Fi画面の左上付近にあるフィルタボタン  をタップすると、どのネットワークコンポーネントを表示するかを制御するフィルタを設定できます。

また、**チャンネルマップ** > **オーバーラップ**画面では、以下のようにフィルタを設定することができます。

← オーバラップ・フィルタ

チャンネル (33)

SSIDs (190)

信号強度 (3)

SNR (4)

802.11 タイプ (6)

セキュリティ (7)

括弧内の数字は、各カテゴリーでアクティブなネットワーク特性がいくつ検出されたかを示しています。(例では、(33)アクティブチャンネル、(190)SSID、といった具合です)。

カテゴリーをタップすると、チェックボックスやラジオボタンでフィルタを選択できます。

セキュリティ (7)

- ☐ WPA2-E (8)
- ☐ WPA-E (2)
- ☐ WPA3-P (26)
- ☐ WPA2-P (162)
- ☐ WPA-P (33)


各カテゴリの下には、各特性ごとに検出された AP の数が表示されます。(上記の例では、(7) セキュリティタイプが検出され、WPA2-Pセキュリティタイプを使用しているAPが(162)台あります)。

この例では、オーバーラップ画面には、選択したフィルタ・パラメーターに該当するAPのみが表示されます。



フィルタが選択されると、そのアクティブなフィルタが**フィルタ画面**の上部に表示されます。

- 各フィルタの右側にある×ボタンをタップすると、フィルタがクリアされます。
- 右上のフィルタクリアのアイコンをタップすると、すべてのフィルタがクリアされます。

オーバーラップ画面に戻ると、フィルタアイコンの左側に、アクティブなフィルターの数が次のように表示されます: 2 



下のAPs画面のように、画面タイトルには、検出された全機器のうち、フィルタリングされた機器の数(全187台のうち、フィルタリングされた機器は13台)が表示されます。

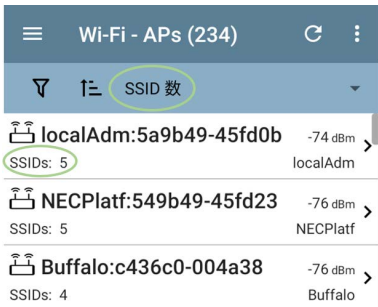


↑ Wi-Fiアプリのソート


並べ替えバーまたは下矢印をタップすると、並べ替えドロップダウンメニューが表示されます。各リスト画面では、表示内容に応じたソートオプションが用意されています。APs 画面のソートオプションは、例として以下のとおりです。



選択した特性に基づいてリストを並べるには、ソートオプションを選択します。




選択されたソートオプションはリスト上部のソートバーに表示され、各項目のソート特性は、タイプアイコンと名前の下に表示されます。上の画像では、検出されたAPは、各APアイコンの下に表示されているSSID数でソートされています。

ソートアイコン  をタップすると、ソート順を通常順と逆順に切り替えることができます。

ワイヤレスデバイスとIDは、グループごとに分類されています。解決済みの名前を持つデバイスが一番上に表示され(通常の順序)、その下にIPv4、IPv6、MACアドレスのみを持つデバイスがそれぞれ表示されます。


通常のソート順を逆にすると、グループ内のデバイスが逆になりますが、グループの順番は変わりません。

ディスカバリ更新

Wi-Fi画面のいずれかで、画面右上のアクションオーバーフローのアイコンをタップする（チャンネルマップ、チャンネル、SSID、AP、BSSID、クライアントのいずれか）を選択し、**ディスカバリ更新**を選択すると、Wi-Fiアプリの画面がクリアされ、データが再入力されます。




全問題をクリア

Wi-Fi画面のいずれかで、画面右上のアクションオーバーフローのアイコンをタップする（チャンネルマップ、チャンネル、SSID、AP、BSSID、クライアントのいずれか）を選択し、

全問題をクリアをタップすると、すべてのWi-Fiリストで検出されたすべての問題がクリアされます。

詳しくは、**Wi-Fiの問題画面**をご覧ください。

Set Authorization

また、Authorizationを使って**BSSID**や**クライアント**リストをソートすることができます。**BSSID**または**クライアント**リストの画面で、アクションオーバーフローのアイコン  をタップするを選択すると、これらのデバイスが現在どのように分類されているか、各分類に属するデバイスの数が表示されます。

Set Authorization

141 of 141 BSSIDs selected



- ☐ 認可済み (0)
- ☐ 隣接 (0)
- ☐ フラグ有 (0)
- ☐ 不明 (0)
- ☐ 未承認 (0)
- ☒ 未定義 (141)

キャンセル

OK

詳しくは、466ページの**デバイスに名前と認可を割り当てる**を参照してください。

Wi-Fi結果をLink-Liveへアップロード

Wi-Fi画面のいずれかで、画面右上のアクションオーバーフローのアイコンをタップする（チャンネルマップ、チャンネル、SSID、AP、BSSID、クライアントのいずれか）を選択し、**Link-Liveにアップロード**をタップすると、現在のWi-Fi結果がLink-Live.comの解析ページに送信されます。

NOTE: ディスカバリアプリの結果は、Wi-Fiの結果と一緒に自動的にアップロードされます。



Link-Live

by NetAlly



解析名

20230322-133225

コメント

TOYO Test

Job コメント

Test



解析ファイルに保存

Wi-Fiの詳細画面

一覧画面（SSID、AP、BSSID、クライアント）のいずれかのカードをタップすると、そのデバイスまたはネットワークIDの詳細画面が表示されます。



Wi-Fiの詳細画面では、**青いリンク**先の名前やアドレスをタップすると、リンク先の端末の**ディスカバリ**や**Wi-Fiアプリ**の画面を開くことができます。

NOTE: 下線のないリンクは同じアプリ(この場合はWi-Fi)で、**下線のあるリンク**は別のアプリ(この場合はディスカバリ)で開かれます。

各詳細画面では、選択した項目に関する追加情報、AirCheck G3が検出した問題、および接続されている他のネットワーク機器やIDのカウン트가表示されます。



Wi-Fi - チャンネル



チャンネル 36

5.180 GHz

チャンネル: 36

中心周波数: 5.180 GHz

周波数レンジ: 5.170 - 5.190 GHz

幅: 20 MHz

バンド: 5 GHz UNII - 1/2



SSIDs

9 >

[Hidden], aterm-2173ff-aw, DIRECT-jN-FireTV_f...



APs

10 >

Buffalo:d42c46-c31a8b, localAdm:6aebb6-a...



BSSIDs

12 >

1c61b4-9202eb, 62ebb6-a0165e, 62ebb6-a0...



クライアント

15 >



RFとトラフィック統計

信号強度: -35 dBm 使用率: 13%



上記の**チャンネル詳細画面**では、チャンネル36で検出されたSSID、AP、BSSID、またはクライアントの数が表示されています。

Wi-Fi詳細の下のカードをタップすると、調べているネットワークコンポーネントでフィルタリングされた一覧画面が表示されます。

チャンネル 36の詳細画面でBSSIDsを選択すると、BSSIDs画面が開き、チャンネル 36で見つかったBSSIDのみを対象にフィルタリングを行います。

BSSIDs (27/247)			
1	信号強度		
 Buffalo:d42c46-c31a82	-33 dBm	TOYO-WAP01	CH: 36
 localAdm:62ebb6-a0165e	-48 dBm	TP-Link_02EE_5G_1	CH: 36
 localAdm:62ebb6-a0165f	-48 dBm	[Hidden]	CH: 36

詳細画面については、Wi-Fiアプリの画面の種類（SSIDs、APsなど）ごとのトピックを参照してください。

Wi-Fiの問題画面

有効になっているWi-Fi問題のいずれかが検出された場合、Wi-Fi詳細画面に**問題**カードが表示されます。

 Wi-Fi - AP



 Buffalo:dcfb02-6969c8
AP
AP: [Buffalo:dcfb02-6969c8](#)
ベンダ プリフィクス: Buffalo
802.11
タイプ: n, g, a, b
セキュリティ タイプ: WPA2-P, WPA-P
信号強度: -78 dBm
最終検出: 11:09:25

 問題 1 >
警告: 1


 SSIDs 2 \

問題カードには、最も深刻度の高い問題のアイコンの色と、デバイスまたはネットワークコンポーネントの**警告**、**失敗(エラー)**、**情報**、および解決された状態の検出数が表示されます。

問題カードをタップして問題画面を開きます。

Problems (2)	
Severity	
 TRENDn-af1e31 channel changes: 1 12:24:22 PM	>
 TRENDn-af1e35 channel changes: 6 12:18:21 PM	>

問題一覧画面で、問題の行をタップすると、詳細な説明が表示されます。

また、ソートフィールドをタップすると、重要度順、または問題が最初に検出された時間順でリストをソートすることができます。問題をクリアするには、右上のアクションオーバーフローボタン  をタップし、**全問題をクリア**をタップします。

AirCheck G3が検出し表示するWi-Fi問題を選択するには、ディスカバリアプリの**問題設定**を参照してください。

RFとトラフィック統計の概要

チャネル、BSSID、クライアント詳細画面では、トラフィックが検出された場合、**RFとトラフィック統計**を表示できます。

このセクションでは、RFとトラフィック統計画面の共通要素について説明します。相違点については、各タイプの詳細画面のトピックを参照してください。

RFとトラフィック統計

CH使用率: 39%



RFとトラフィック統計カードは、チャンネル番号とチャンネル上で最も強力なAPの信号強度、チャンネルの使用率を表示します。

カードをタップすると、信号強度、ノイズ、使用率、リトライのグラフが表示されます。

グラフのズームは、スワイプ、ダブルタップ、スライダーの移動で行います。



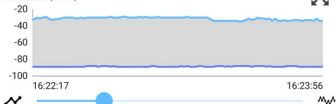
RFとトラフィック統計



チャンネル 36

最も強力な AP: [Buffalo:d42c46-c31a82](#)

信号強度 (dBm)



	最新	最小	最大	平均
信号強度 (dBm)	-30	-35	-29	-31
ノイズ (dBm)	-89	-91	-88	-88
SNR (dB)	59			57

使用率 (%)



	最新	最小	最大
802.11	14	3	34
非 802.11	0	0	0

最も強力なAP：チャンネル上で最も強い信号を持つAP

各グラフの下には、「最新値」「最小値」「最大値」「平均値」の測定値が凡例として表示されます。

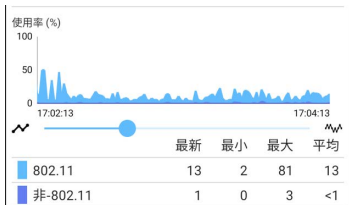
最新列には、最後の1秒からの測定値が表示されます。**最小、最大、平均**の列には、RFとトラフィック統計画面を開いている間に収集された累積測定値が表示されます。

画面上部の更新ボタン  をタップすると、測定値がクリアされ、リフレッシュされます。

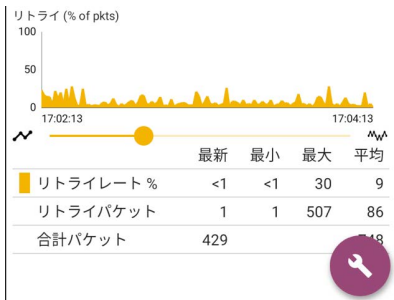
信号強度(dBm)グラフ：選択したAPまたはチャネル上で最も強い信号を持つAPの信号強度をdBmでプロットします。

- Y軸は、Wi-Fiクライアントではなく、アクセスポイントが対応する最大Txレートにスケールします。
- **信号強度** - APの信号強度をdBmで表示
- **ノイズ** - 使用するチャネルのノイズレベル (dBm)
- **SNR** - ネットワークの信号対ノイズ比。ノイズに対する信号の強さを示す指標で、デシベル(dB)で測定されます。

使用率(%)グラフ：802.11デバイスと非802.11干渉によって使用されているチャネル容量の割合をプロットします。



リトライ(% of packets)グラフ: 送信パケットのうち、リトライパケットの割合をプロットします。





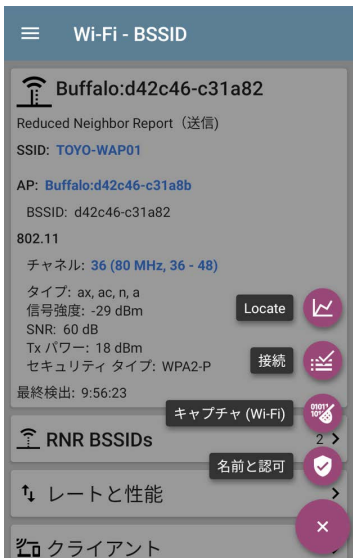
- ・ **リトライレート %** - 全パケットのうち、リトライパケットである割合
- ・ **リトライパケット** - リトライパケット数
- ・ **合計パケット** - 送信パケットの総数

Wi-Fiデバイスの位置特定

AirCheck G3を使用して、**BSSIDs**と**クライアント**のチャンネルマップ画面から**AP**と**Wi-Fiクライアント**の位置を特定することができます。

位置特定を始めるには:

1. Wi-Fiアプリを開きます。
2. メニューアイコン  から**BSSIDs**または**クライアント**を選択します。
3. 検索したい**BSSID**または**クライアント**を選択します。
4. 画面右下の**FAB**メニューアイコン  をタップします。これにより、**FAB**のポップアップオプションが表示されます。



5. **Locate**をタップします。

これにより、Locate画面が開き、
AirCheck G3は、内部アンテナまたは
オプションの外部アンテナ(別売)を使用
して、

検出したいBSSIDまたはクライアントの無線デバイスを探することができます。



BSSID位置特定

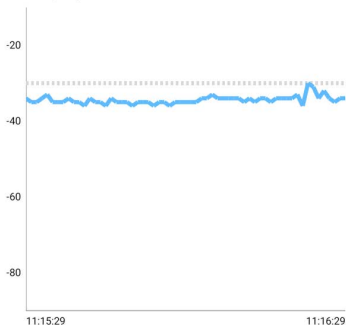


Buffalo:d42c46-c31a82

チャンネル: 36 (80 MHz, 36 - 48)

信号強度: -34 dBm

信号強度 (dBm)




最終検出: 11:16:29




外部アンテナ



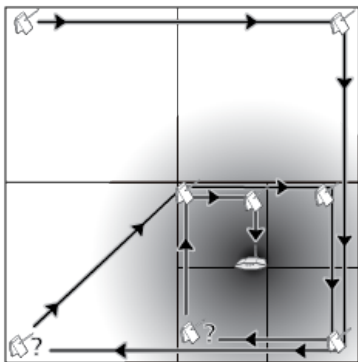
- テストユニットは、デバイスの信号強度が高くなるにつれて（近づくにつれて）、レートとピッチが増加する可聴トーンを発することができます。スピーカーアイコン  をタップして、サウンドの**オン／オフ**を切り替えます。スピーカーアイコンのそばにある音量スライダーを使って、音を大きくしたり小さくしたりできます。（外部サウンドデバイスを装着している場合は、本体側面のボタンで音量を調節します）
- 外部アンテナのトグルボタンは、オプションの外部アンテナを**有効／無効**にできます。
 - 病院や学校のように部屋数が多い場所では、内部アンテナの方が効果的です。**内部アンテナでの位置特定**を参照してください。
 - 広くて開放的な場所では、外部アンテナを使用することで、より速く機器の位置を特定することができます。**指向性外部アンテナでの位置特定**を参照してください。

内部アンテナでの位置特定

AirCheck G3は、デフォルトで内部アンテナを使用します。

1. 位置を特定する必要があるBSSID (AP) またはクライアントの**位置特定**画面に移動します。(画像458ページ)
2. スピーカーアイコン  をタップして、音声の**オン／オフ**を切り替えます。

3. 探したいエリアを4分割します。



4. 検索したいエリアの一角に移動し、デバイスの信号強度を信号グラフで確認します。
5. エリアの他の3つのコーナーに行き、各コーナーでの信号強度を確認します。
6. 最も信号強度の強いコーナーに行きます。

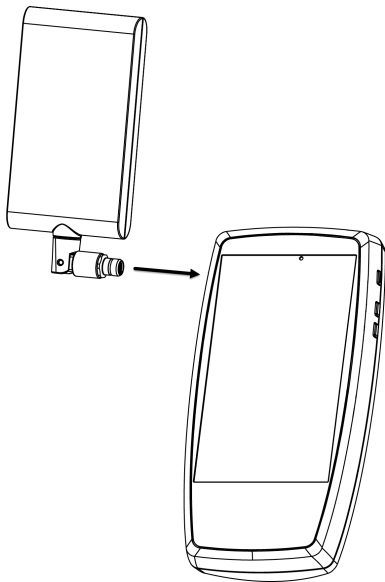
7. デバイスが見つかるまで、手順3～6を繰り返します。

それでも見つからない場合は、上下階を探してみてください。クライアントが見つからない場合は、まずクライアントが接続されているAPを探し出してみてください。


指向性外部アンテナでの位置特定

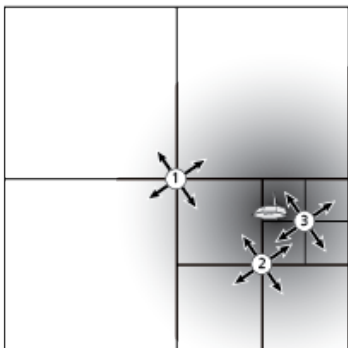
広くて開放的な場所では、指向性のある外部アンテナを使用することで、内部アンテナよりも正確に信号源の方向を特定することができます。

1. 指向性トライバンド(2.4、5、6 GHz)外部アンテナを使用する場合は、アンテナのRP-SMAコネクタをAirCheck G3の上部にあるアンテナポートに回しながら挿入します。(下図)。デュアルバンド(2.4GHzと5GHz)フラッグアンテナを使用する場合は、外部アンテナコードをアンテナポートに回しながら挿入します。



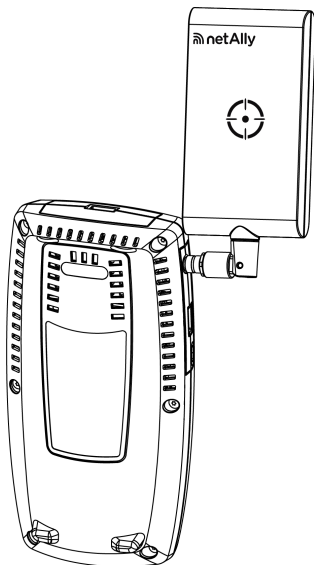
2. **位置特定画面(画像458ページ)で、外部アンテナトグルボタンをタップして、外部アンテナを有効にします。**

3. スピーカーアイコン  をタップして、音声の **オン／オフ** を切り替えます。
4. 探したいエリアを4分割します。



5. 検索するエリアの中央に移動します。
6. 指向性トライバンド外部アンテナの場合、RP-SMAコネクタのスイベルジョイントを使用して、アンテナのターゲットシルクスクリンがサーチエリアの方を向くように、下図のようにアンテナを角度調整します。

アンテナをエリアの各コーナーに向けま
す。最良の測定値を得るには、一定の高
さで、キュービクルの壁などの障壁の上に
保持します。



7. デュアルバンドフラッグアンテナの場合、
下図のようにアンテナの前端を検索するエリアに向けてください。



8. 最も信号の強い区間の真ん中に行きます。
9. デバイスが見つかるまで、手順4～7を繰り返します。

デバイスに名前と認可を割り当てる

Wi-Fiアプリとディスカバリアプリでは、MACアドレスまたはBSSIDを持つ検出されたデバイスに**名前**と**認可**を割り当てるオプションを提供します。

ユーザー名および認可ステータスを割り当てても、実際のデバイスの情報は変更されませんが、

名前と認可が割り当てられたAirCheck G3でのデバイス情報の表示方法のみが変更されます。

複数のアドレスを持つデバイスの1つのBSSIDまたはMACアドレスに、名前および認可を割り当てるだけで済みます。名前と認可は、内部の**authname.txt**ファイルに保存され、ユニットの電源が切れたり入ったりしても設定されたままです。

この機能により、既知のデバイスを素早く特定し、以下のステータスで分類することができます：

- **認可済み**：ネットワークでの使用が許可されたデバイスの場合
- **隣接**：近隣の組織が所有・管理するデバイスの場合
- **フラグ有**：特定のデバイスを可視化する場合
- **不明**：識別・分類されていないデバイスの場合
- **未認証**：ネットワーク上に存在すべきでなく、セキュリティリスクをもたらす可能性のあるデバイスの場合

- **未定義**：デフォルトで未設定 認可の状態


認可ステータスは、このような意図で設計されていますが、目的に応じて自由に使用することができます。

一度設定されたカスタムユーザー名は、他の NetAlly アプリでデバイス情報が表示される場所に表示されます。認可は、**ディスカバリアプリ**と **Wi-Fiアプリ**で表示されます。

Wi-Fiアプリとディスカバリアプリでは、割り当てられた認可でソートとフィルタリングを行うことができます。リストを認可でソートした場合（通常のソート順）、最も懸念される認可を持つデバイスが一番上に表示されます。下の画像は、BSSIDs の一覧画面をこのようにソートしたものです：

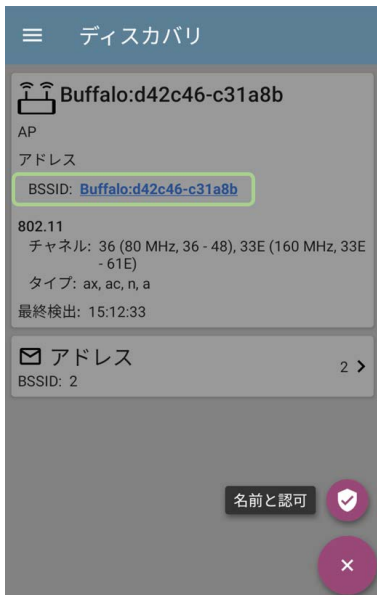
Wi-Fi - BSSIDs (109)			
▼	↑	認可	▼
📶	不明	Buffalo:18c2bf-28c314	-87 dBm >
		Buffalo-A-C310	CH: 36
📶	フラグ有	ASUSTek:04421a-48f6d4	-86 dBm >
		asusadminrio	CH: 44
📶	隣接	AskeyCom:4cabf8-8d9109	-91 dBm >
		auhikari-U2Y2KT	CH: 112
📶	認可済み	AskeyCom:4cabf8-190484	-86 dBm >
		auhikari-YQT5UD	CH: 112

名前と認可の適用

BSSIDまたはクライアントのディスカバリの詳細画面またはWi-Fiの詳細画面のフローティングアクションメニュー  から、名前と認可機能にアクセスできます。

NOTE: 複数のBSSIDやMACアドレスを持つ機器に認可を適用する場合、本項で示すように、詳細画面に表示されているMACアドレス/BSSIDにのみ、認可のステータスが適用されます。

1. 検出されたMAC/BSSIDを持つデバイスのディスカバリ画面またはWi-Fi詳細画面で、**FAB**をタップします。



上の例は、**ディスカバリアプリ**のAPの詳細画面です。

2. 名前と認可を選択すると、ダイアログが表示されます。

名前と認可

アドレス: Buffalo:d42c46-c31a8b

ユーザ名: TOYO AP

☒ 認可済み

☐ 隣接

☐ フラグ有

☐ 不明

☐ 未承認

☐ 未定義

キャンセル OK


3. **名前と認可**ダイアログで、**ユーザ名**フィールドをタップして、必要に応じてカスタマイズした名前を入力します。

上の画像では、ユーザーは“**TOYO AP**”という名前を入力しています。


NOTE: ユーザー名を入力するか、認可などの設定をするか、どちらかを選択することが可能です。両方する必要はありません。

4. 必要に応じてラジオボタンを選択し、認可ステータスを割り当てます。
5. OKをタップし適用します。

適用されると、**ディスカバリの詳細画面**にユーザー名と認可が表示されます。



ディスカバリ



TOYO AP

AP

名前

ユーザ: TOYO AP

アドレス

BSSID: [Buffalo:d42c46-c31a8b](#)

認可: 認可済み

802.11

チャンネル: 36 (80 MHz, 36 - 48), 33E (160 MHz, 33E - 61E)

タイプ: ax, ac, n, a

最終検出: 15:30:19



アドレス

BSSID: 2

2 >

また、**Wi-Fiアプリ**のBSSIDs詳細画面には、以下のようにAPのユーザー名とBSSIDの認可が表示されます。



Wi-Fi - BSSID



Buffalo:d42c46-c31a8b

BSSID

SSID: TOYO-WAP6E

AP: TOYO AP

BSSID: d42c46-c31a8b

認可: 認可済み

802.11

チャンネル: 33E (160 MHz, 33E - 61E)

タイプ: ax

信号強度: -59 dBm

SNR: 33 dB

Tx パワー: 15 dBm

セキュリティ タイプ: WPA3-P

最終検出: 15:33:15

↕ レートと性能

🏠 クライアント



NOTE: 同じデバイスの異なるBSSIDまたはMACアドレスに異なる認可ステータスが割り当てられている場合、デバイスの詳細画面には、最も懸念される認証が表示されます。

474

ユーザー名と認可の変更、クリア

デバイスの同じBSSIDまたはMACアドレスに対して、再度**名前と認可**ダイアログを開き、割り当てられたユーザー名または認可を再割り当て、またはクリアします。数分後に名前または認可が期待通りに更新されない場合、同じデバイスの複数のアドレスに割り当てている可能性があります。

デバイスに割り当てられたすべての認可を表示するには、デバイスの**ディスカバリ**または**Wi-Fiの詳細画面**を開き、**アドレス**または**BSSID画面**を表示します。次に、認可で並べ替えます。

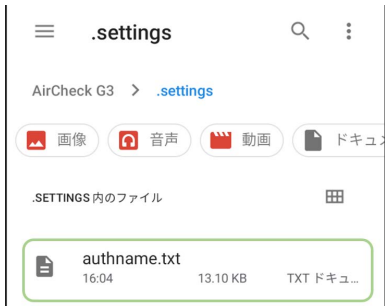
≡ アドレス (3)		
↑ 認可		▼
 不明	AskeyCom:4cabf8-190483 auhikari-YQT5UD	CH: 6 >
 フラグ有	localAdm:56abf8-190484 --	CH: 112 >
 隣接	AskeyCom:4cabf8-190484 auhikari-YQT5UD	CH: 112 >

デバイスのユーザー名および/または認可を未割り当てのデフォルトにリセットするには、**名前と認可**ダイアログを開き、**ユーザー名**フィールドをクリアして空白のままにし、**未定義**を選択します。次に、**OK**をタップします。

authname.txtの修正とインポート (日本語非対応)

カスタム名と認可は、AirCheck G3の内部ストレージの **.settings** フォルダにある **authname.txt** ファイルに保存され、**ファイルアプリ**からアクセスできます。





NOTE: ファイルアプリで、右上のアクションオーバーフローアイコン **⋮** をタップし、**非表示のファイルを表示**を選択して、AirCheck G3フォルダとサブフォルダに移動する必要があります。

必要に応じて、AirCheck G3ユニットでこのファイルを手動で編集するか、PCで新しい**authname.txt**ファイルを作成し、同じファイルの場所にあるユニットにインポートすることが可能です。

ユニットのデフォルトの**authname.txt**ファイルには、**名前と認可**のエントリーのフォーマットに関する説明が含まれています。

← authname.txt

c43cea-5ca808, 未定義,
c43cea-d3736a, 未定義,
c43cea-d4d02a, 未定義,
d42c46-c31a8b, 認可済み, TOYO AP
dcfb02-6969c8, 未定義,
dcfb02-cc8b48, 未定義,
04ab18-e6a046, 未定義,
34fcb9-9bc450, 未定義,
3863bb-d42bb1, 未定義,
90324b-ff4b08, 未定義,
...


**TOYO AP**

認可済み

-37 dBm



Buffalo

AirCheckG3で**authname.txt**ファイルを編集するには、NetAllyのアプリストア  から**QuickEdit Text Editor**などのサードパーティアプリを入手する必要があります。

NOTE: **authname.txt**ファイルをインポートして上書きした後、NetAllyは**ディスカバリアプリ**の**ディスカバリ更新**または本体を再起動することを推奨します。

チャンネルマップ

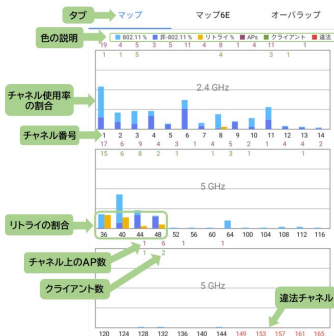
チャンネルマップ画面では、APのカバー率とオーバーラップを含むチャンネル使用率のチャートを提供します。右または左にスワイプするか、タブ名をタップすると、以下のようにチャートの種類を切り替えることができます：

マップ、マップ6E、オーバーラップ



マップとマップ6Eのタブ

マップとマップ6Eタブには、802.11と非802.11の利用率、リトライ率、各チャネルのAP、各チャネルのクライアント、不正チャネルのバーグラフが表示されます。(マップ6Eタブは6GHzチャネルのみ)。



- 青い縦棒は、**802.11デバイス(水色)**および**非802.11干渉(濃紺)**によって使用される各チャネルの容量の割合を示しています。
- 青いバーの隣にある**黄色いバー**は、リトライの割合を示しています。上の例では、チャンネル1や3はリトライの割合が少ないことを示しています。

- X軸にチャンネル番号、Y軸に利用率が表示されます。
- 違法なチャンネル番号(ユニットに設定されている国で合法でないチャンネル)は、**赤色**で表示されます。上の例では、チャンネル**149、153、157、161、165**が違法です。
- 合法チャンネルが無効になった場合は**グレー**で表示されます。
- 違法チャンネルが無効になった場合は**薄い赤色**で表示されます。
- APのプライマリチャンネルのAP数は、各チャンネルの列の上部に**紫色**で表示されます。以下の例では、チャンネル132には、5つのAPがあります。(APがないチャンネルでも、隣接するチャンネルからのオーバーラップのため、802.11利用率を示すことがあります)

- チャンネルのクライアント数は、各チャンネルの列の上部付近に**緑色**で表示されます。以下の例では、チャンネル142には2人のクライアントがいます。
- マップまたはマップ6Eグラフ上のチャンネルの列をタップして、チャンネルを選択し強調表示します。これにより、画面下部に**チャンネル詳細**と**スペクトラム**のリンクが表示されます。下の例では、チャンネル132がハイライトされています。

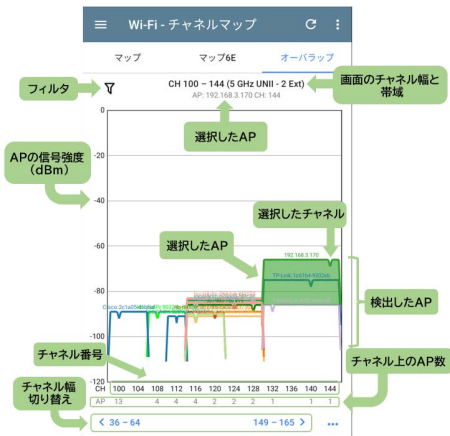



チャンネルの詳細画面では、チャンネル上で動作するアドレスやデバイスを調べ、より深い解析を行うことができます。

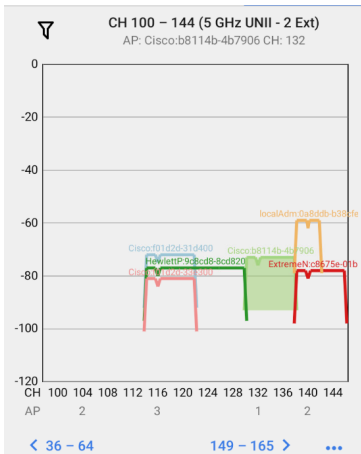
スペクトラムのリンクをクリックすると、信号強度とノイズに関するデータを提供するWi-Fiスペクトラムアナライザである**Spectrum**アプリが開きます。


オーバラップのタブ

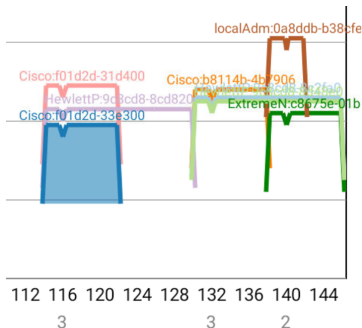
オーバラップをタップすると、アクセスポイントのチャンネル、カバレッジ、オーバラップが表示されます。これは、潜在的なカバレッジの問題を発見するのに役立ちます。検出された各APは、チャンネルカバレッジ(X 軸)と信号強度(dBm)(Y 軸)に基づくグラフ上の色付きの括弧として表示されます。



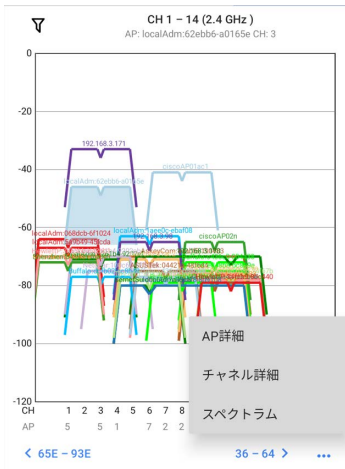
- 左上のフィルターアイコン  をタップして、表示されるAPを制御するためのオーバーラップフィルター画面を開きます。チャンネル、SSID、信号、SNR、802.11タイプ、セキュリティのフィルターを選択することができます。
- グラフ上のAPをタップして、そのAPとプライマリチャンネルを選択します。これにより、チャンネルがカバーする領域が強調表示され、グラフの上にチャンネル情報が表示されます。下の画像では、チャンネル132の「Cisco:b8114b-4b7906」というAPが選択されています。



- グラフをダブルタップすると、ズームインまたは親指と人差し指で“ピンチ”ジェスチャーをします。復元アイコン  をタップするか、ピンチジェスチャーを逆にすると、完全なグラフに戻ることができます。下の画像は、チャンネル116の「Cisco:f01d2d-33e300」というAPが選択されている状態で、ズームインして表示されています。



- 下部の青い**チャンネルセレクタ**をタップすると、異なるWi-Fiバンド(2.4、5、6GHz)とチャンネル範囲をグラフで表示することができます。
- アクションオーバーフローボタン **...** をタップすると、選択した**AP詳細画面**または**チャンネル詳細画面**、**Spectrum**アプリを開くことができます。





オーバラップ画面のフィルタリングの説明については、[Wi-Fiアプリのフィルタリング](#)を参照してください。

チャンネル

チャンネル一覧画面では、現在地でスキャンされている無線チャンネルの特徴が表示されます。

Wi-Fi - チャンネル (98)			🔄	⋮
📶	↑ ↓	チャンネル		
	チャンネル 1	チャンネル 1	APs: 8	>
		2.412 GHz Util: 22 %		
	チャンネル 2	チャンネル 2	APs: 1	>
		2.417 GHz Util: 26 %		
	チャンネル 3	チャンネル 3	APs: 6	>
		2.422 GHz Util: 72 %		
	チャンネル 4	チャンネル 4	APs: 2	>
		2.427 GHz Util: 24 %		
	チャンネル 5	チャンネル 5	APs: 1	>
		2.432 GHz Util: 21 %		
	チャンネル 6	チャンネル 6	APs: 8	>
		2.437 GHz Util: 59 %		
	チャンネル 7	チャンネル 7	APs: 2	>
		2.442 GHz Util: 14 %		

一覧のフィルタリング  とソート  により、表示されるチャンネルとその順序を決定することができます。必要に応じて、**Wi-Fiアプリの一覧画面**のトピックを参照してください。

デフォルトでは、チャンネルはチャンネル番号順に並び、各カードにはチャンネルの周波数、APの数、合計使用率が表示されます。

チャンネルカードをタップすると、**チャンネルの詳細画面**が表示されます。

チャンネルの詳細画面


Wi-Fi - チャンネル


チャンネル 1
 2.412 GHz
 チャンネル: 1
 中心周波数: 2.412 GHz
 周波数レンジ: 2.402 - 2.422 GHz
 幅: 20 MHz
 バンド: 2.4 GHz


問題 1 >
 警告: 1


SSIDs 15 >
 [Hidden], .FREE_Wi-Fi_PASSPORT, 4CE676508DE4_G, 4...


APs 11 >
 9c7403-7d9918, Buffalo:18c2bf-28c314, Buffalo:4ce676...


BSSIDs 16 >
 068ddb-6f1024, 0c8ddb-6f1024, 104b46-e1bc44, 124b4...


クライアント 1 >


RFとトラフィック統計 >
 信号強度: -69 dBm 使用率: 35%



チャンネルの詳細画面では、アイコンの下にチャンネルの中心周波数が表示され、周波数レンジ、幅、バンドも表示されます。

また、DFS(Dynamic Frequency Selection)チャネルは、DFSを示す属性のフィールドが表示されます。

チャネルのRFとトラフィック統計

RFとトラフィック統計カードは、チャネルにアクティブなAPと使用率が存在する場合に表示されます。[RFとトラフィック統計の概要](#)を参照してください。

Channel FAB





チャネル詳細画面のFABをタップすると、以下のようになります:

- チャンネルのパケットキャプチャを記録するために、**キャプチャアプリ**を開きます。
- 現在のチャンネルを選択した状態で、**チャンネルマップ**画面を開きます。
- **スペクトラムアプリ**を開き、チャンネルの信号測定値を表示します。

SSIDs




SSIDs一覧画面には、AirCheck G3が検出したすべてのネットワークSSIDが表示されます。

Wi-Fi - SSIDs (165)			
🔍	📶	信号強度	▼
📶 TOYO-WAP01	-33 dBm	🔒	-33 dBm APs: 5
📶 [Hidden]	-38 dBm	🔒	-38 dBm APs: 31
📶 TP-Link_02EE_5G_1	-38 dBm	🔒	-38 dBm APs: 2
📶 Buffalo-2G-1A78-WPA3	-39 dBm	🔒	-39 dBm APs: 1
📶 TP-Link_02EE	-44 dBm	🔒	-44 dBm APs: 2
📶 CHIYODA_Free_Wi-Fi_01	-52 dBm	🔓	-52 dBm APs: 2
📶 TOYO-144ch	-58 dBm	🔒	-58 dBm APs: 1
📶 TOYO-WAP6E	-58 dBm		

一覧のフィルタリング  とソート  により、表示されるチャンネルとその順序を決定することができます。必要に応じて、**Wi-Fiアプリの一覧画面**のトピックを参照してください。

デフォルトでは、SSIDは信号強度の順に並び、各カードにはネットワークセキュリティの状態やネットワーク上のAPの数が表示されます。

セキュリティステータスのアイコンは、以下のような意味を持ちます：

-  **緑色の閉じた鍵**：ネットワーク上のすべてのAPが、WPA2やWPA3などの安全なプロトコルを使用しています。
-  **黄色い閉じた鍵**：1つ以上のAPが、安全性の低いWEPまたはCisco LEAPプロトコルを使用しています。
-  **赤色の開いた鍵**：ネットワークはセキュリティが有効になっていません。

SSIDカードをタップすると、**SSIDの詳細画面**が表示されます。

SSIDの詳細画面


Wi-Fi - SSID


TOYO-WAP01
 ブロードキャスト SSID
 SSID: TOYO-WAP01
 タイプ: ax, ac, n, g, a, b
 セキュリティ タイプ: WPA2-P
 最も強力な AP: [Buffalo:d42c46-c31a82](#)
 信号強度: -36 dBm
 最終検出: 10:39:39


APs 5 >
 192.168.3.170, 192.168.3.171, Buffalo:d42c46-c31a82, ci...


BSSIDs 5 >
 002a10-262780, 002a10-51dcc0, 18ece7-f90432, d42c46...


チャネル 5 >
 3, 8, 11, 36, 40


クライアント 21 >



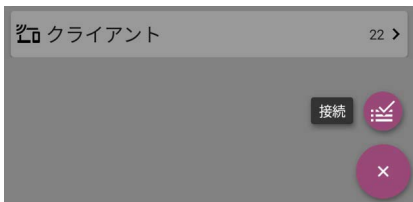
信号とセキュリティタイプに加えて、SSIDの詳細画面には、信号が最も強いネットワーク上のAP、ネットワーク内のAPがサポートする802.11タイプ、

およびAirCheck G3が最後にネットワーク上の活動を検出した時間（最終検出）が表示されます。

AirCheck G3は、802.11タイプのa/b/g/n/ac/axを検出・表示できます。

SSID FAB

SSID詳細画面のFABをタップして、ネットワークに接続します。



この操作で**自動テストアプリ**が開き、“**接続先 [SSID名]**”という新しいWi-Fiプロファイルが作成されます。

プロファイル'接続先 TOYO-144ch'を作成しました。

すぐに認証情報を構成しますか？








NO

YES

このプロセスの詳細については、**自動テストの章のWi-FiアプリからWi-Fiプロファイルを作成する**を参照してください。

APs

APsの一覧画面には、ワイヤレスネットワークで動作していることが確認されたすべてのアクセスポイントが表示されます。

Wi-Fi - APs (127)		
信号強度		
 192.168.3.171	-36 dBm	Buffalo
 Buffalo:d42c46-c31a82	-36 dBm	Buffalo
 ciscoAP01ac1	-41 dBm	Cisco
 localAdm:62ebb6-a0165e	-48 dBm	localAdm
 192.168.3.98	-57 dBm	D-LinkIn
 localAdm:1aee0c-ebaf08	-58 dBm	localAdm
 192.168.3.170	-62 dBm	

一覧のフィルタリング  とソート  により、表示されるAPとその順序を決定することができます。

必要に応じて、**Wi-Fiアプリの一覧画面**のトピックを参照してください。

デフォルトでは、APは信号強度順に並び、各カードには信号強度(dBm)とAPの製造元プレフィックスが表示されます。

個々のAPのカードをタップすると、APの詳細画面が表示されます。

APの詳細画面



Wi-Fi - AP



Buffalo:dcfb02-6969c8

AP

AP: [Buffalo:dcfb02-6969c8](#)

ベンダ プリフィクス: Buffalo

802.11

タイプ: n, g, a, b
 セキュリティ タイプ: WPA2-P, WPA-P
 信号強度: -78 dBm

最終検出: 11:09:25



問題

警告: 1

1 >



SSIDs

akihabara06F_A, akihabara06F_G

2 >



BSSIDs

dcfb02-6969c0, dcfb02-6969c8, dcfb02-6969f0

3 >



チャネル

8, 36

2 >

APの詳細画面には、APがサポートしている802.11タイプ、APのセキュリティタイプ、およびAPがAirCheck G3によって最後に検出された時間(最終検出)が表示されます。



下のカードをタップすると、APに関連するネットワークID、チャンネル、クライアントが表示されます。

問題カードについては、[Wi-Fiの問題画面](#)を参照してください。

BSSIDs

BSSIDsの一覧画面では、ワイヤレス環境で検出されたBSSIDアドレスが表示されます。

Wi-Fi - BSSIDs (257)			
📶	↑↓ 信号強度		
📶 Buffalo:d42c46-c31a7a	-34 dBm	Buffalo-2G-1A78-WPA3	CH: 3
📶 Buffalo:d42c46-c31a79	-35 dBm	TOYO-WAP01	CH: 3
📶 Buffalo:d42c46-c31a82	-37 dBm	TOYO-WAP01	CH: 36
📶 Cisco:002a10-262780	-40 dBm	TOYO-WAP01	CH: 8
📶 localAdm:6aebb6-a0165c	-47 dBm	[Hidden]	CH: 3
📶 localAdm:6aebb6-a0165f	-47 dBm	TP-Link_02EE	CH: 3
📶 localAdm:62ebb6-a0165e	-48 dBm	TP-Link_02EE 5G 1	CH: 36

一覧のフィルタリング  とソート  により、表示されるBSSIDとその順序を決定することができます。必要に応じて、[Wi-Fiアプリの一覧画面](#)のトピックを参照してください。

デフォルトでは、BSSIDは信号強度順に並んでおり、各カードには、信号強度、SSID、BSSIDが動作するチャンネル番号が表示されます。アイコンは、以下のようにBSSIDの種類を表しています：



シングルBSSID、送信



Reduced neighbor report、送信



Reduced neighbor report、非送信



マルチBSSID、送信(6GHz)



マルチBSSID、非送信(6GHz)

色はBSSIDの状態を示し、**黒色**は正常、**黄色**は警告レベルの問題、**赤色**はエラーレベルの問題を示します。

BSSIDのカードをタップすると、詳細画面が表示されます。

BSSIDの詳細画面


Wi-Fi - BSSID


Buffalo:d42c46-c31a79
 Reduced Neighbor Report (送信)
 SSID: **TOYO-WAP01**
 AP: **192.168.3.171**
 BSSID: d42c46-c31a79
 802.11
 チャンネル: **3**
 タイプ: ax, ac, n, g, b
 信号強度: -39 dBm
 SNR: 52 dB
 セキュリティ タイプ: WPA2-P
 最終検出: 11:36:17


RNR BSSIDs
2 >


レートと性能
>


クライアント
2 >


RFとトラフィック統計
>
 CH使用率: 85%



詳細画面では、BSSIDカードの特性に加えて、以下の情報も表示されます：

- ユーザーが割り当てた認可ステータス（設定されている場合）
- 対応する802.11タイプ
- 信号対ノイズ比（SNR）の測定
- ネットワークセキュリティタイプ
- QBSSのステーション数とチャネル使用率
- BSSIDでアクティビティが最後に表示された時間

BSSIDの詳細には、**レートと性能**、**Wi-Fiクライアントリスト**、**BSSID RFとトラフィック統計**へのリンクカードも含まれています。

レートと性能

レートと性能カードをタップすると、**レートと性能**の全画面が開きます。



レートと性能



Buffalo:d42c46-c31a82

Reduced Neighbor Report (送信)

レート (Mbps)

サポート: 6, 9, 12, 18, 24, 36, 48, 54

Basic: 6, 12, 24

国コード: JP

802.11n 能力

SGI 20 MHz: true

SGI 40 MHz: true

Max AMPDU: 65535 bytes

	Tx	Rx
最大レート	300.0 Mbps	300.0 Mbps
最大ストリーム	2	2
最大 MCS	15	15

802.11ac 能力

SGI 80 MHz: true

SGI 160 MHz: false

Max AMPDU: 1048575 bytes

MU Beamformer: false

	Tx	Rx
最大レート	866.7 Mbps	866.7 Mbps

この画面では、ビーコンから報告された送受信レートと802.11の性能に関する詳細情報を表示します。

レート(Mbps)

サポート: APが対応するように設定されている拡張物理(PHY)レート

Basic: APが対応するように設定されている基本的な物理(PHY)レート

国コード

デバイスを使用する国で検出された802.11dの国コード

802.11 能力

- 802.11nの能力は、ビーコン内のHTの能力から収集されます。(High Throughput)
- 802.11acの能力は、ビーコン内のVHTの能力から収集されます。(Very High Throughput)
- 802.11axの能力は、ビーコン内のHEの能力から収集されます。(High Efficiency)

802.11ax レートと性能

AirCheck G3は、ビーコンで確認した**Advanced 802.11ax (Wi-Fi 6)能力**も報告できます。

≡ レートと性能

802.11ax 能力

Max AMPDU: 8388607 bytes

SU Beamformer: true

SU Beamformee: true

MU Beamformer: false

	Tx	Rx
最大レート	1201.0 Mbps	1201.0 Mbps
最大ストリーム	2	2
最大 MCS	11	11

Advanced 802.11ax 能力

+HTC HE Support: true

TWT 要求者サポート: false

TWT 要求者サポート: true

断片化 サポート: 1

Maximum Number Of Fragmented MSDUs/A-MSDUs

Exponent: 0

最小フラグメントサイズ: 不明

HE リンク・アダプテーション サポート: 0

すべての ACK をサポート: false

BSR サポート: true

TWT ブロードキャストをサポート: false

32-bit BA Bitmap Support: false

MU Cascading サポート: false


Ack-Enabled アグリゲーションをサポート: false

クライアント

クライアントカードをタップすると、Wi-Fiクライアントの一覧画面が表示されます。

BSSIDのRFとトラフィック統計

RFとトラフィック統計カードをタップすると、RFとトラフィック統計画面が表示されます。この画面では、画面上部にBSSIDとチャンネル番号が表示され、各情報のグラフも表示されます。

グラフのズームは、スワイプ、ダブルタップ、各グラフ下のスライダーの移動で行えます。完全なグラフに戻るには、復元アイコン  をタップします。

この画面の共通要素の説明については、Wi-Fiの詳細画面の[RFとトラフィック統計の概要](#)を参照してください。

信号強度グラフは、[信号強度](#)が水色、[ノイズ](#)が紺色で表示され、SNRが算出されます。

チャンネル使用率グラフは、水色で[802.11](#)チャンネルの使用率を、紺色で[非802.11](#)の使用率を表示します。



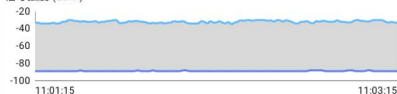
RFとトラフィック統計



Buffalo:d42c46-c31a82

チャンネル: 36 (80 MHz, 36 - 48)

信号強度 (dBm)



	最新	最小	最大	平均
信号強度 (dBm)	-33	-39	-29	-32
ノイズ (dBm)	-89	-91	-88	-88
SNR (dB)	56			56

CH使用率 (%)



	最新	最小	最大	平均
802.11	23	3	47	13
非-802.11	1	0	8	<1

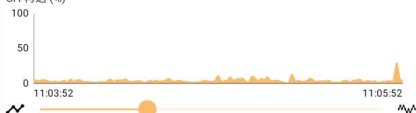
また、以下の画面では、**BSSID 再送**(リトライ)と**チャンネル 再送**(リトライ)のグラフを別々に表示します

BSSID 再送 (%)



	最新	最小	最大	平均
リトライレート %	7	0	40	10
リトライパケット	9	0	664	27
合計パケット	137			232

CH 再送 (%)




	最新	最小	最大	平均
リトライレート %	2	0	29	4
リトライパケット	13	0	673	34
合計パケット	523			773

BSSID FAB

BSSIDの詳細画面のフローティングアクションボタンを使って、無線デバイスの**位置確認**、BSSIDへの**接続**、接続したチャネルの現在のBSSIDによるネットワークトラフィックの

パケットキャプチャの記録、名前と認可の割り当て、変更ができます。

Wi-Fi - BSSID



Buffalo:d42c46-c31a82

Reduced Neighbor Report (送信)

SSID: **TOYO-WAP01**

AP: **Buffalo:d42c46-c31a8b**

BSSID: d42c46-c31a82

802.11

チャンネル: **36 (80 MHz, 36 - 48)**

タイプ: ax, ac, n, a

信号強度: -29 dBm

SNR: 60 dB

Tx パワー: 18 dBm


セキュリティ タイプ: WPA2-P


最終検出: 9:56:23

Locate


接続

キャプチャ (Wi-Fi)









RNR BSSIDs

2 >


名前と認可



↑↓ レートと性能

>

 クライアント





512

- **Locate**を選択すると、**BSSID位置特定**画面が表示されます。**Wi-Fiデバイスの位置特定**を参照してください。
- **接続**をタップすると、自動テストアプリが開き、**接続先[BSSID名]**という新しいWi-Fiプロファイルが作成されます。このプロセスの詳細については、**自動テスト**の章の**Wi-FiアプリからWi-Fiプロファイルを作成する**を参照してください。
- **キャプチャ**を選択すると、チャンネルとBSSIDを入力したキャプチャアプリが開きます。キャプチャアプリの章を参照してください。
- **名前と認可**を選択すると、名前と認可のダイアログが表示されます。**デバイスに名前と認可を割り当てる**を参照してください。



クライアント


クライアント一覧画面には、AirCheck G3が検出した、ワイヤレスネットワークに接続されているワイヤレスクライアントが表示されます。

Wi-Fi - クライアント (1114)			
📶	↑↓ 信号強度		
📶 EdimaxTe:08beac-0526b2	-21 dBm	-- CH: 3	>
📶 IntelCor:c0b6f9-d67c57	-28 dBm	-- CH: 48	>
📶 NetAlly:00c017-551135	-32 dBm	TOYO-WAP01 CH: 36	>
📶 IntelCor:60dd8e-118a2d	-36 dBm	-- CH: 3	>
📶 2c46c3-1a82d4	-38 dBm	-- CH: 36	>
📶 2c46c3-1a82d4	-39 dBm	-- CH: 36	>
📶 192.168.3.215	-40 dBm	CH: 3	>

一覧のフィルタリング  とソート  により、表示されるクライアントとその順序を決定することができます。必要に応じて、**Wi-Fiアプリの一覧画面**のトピックを参照してください。

デフォルトでは、クライアントは信号強度順に並び、各カードにはクライアントの信号強度(dBm)、クライアントが接続されているネットワークのSSID、クライアントが動作しているチャンネル番号が表示されます。

一般的なクライアントアイコンは、デバイスがネットワークにプロービングしているか 、接続しているか、データを受信できるか  を示します。クライアントがプロービング中の場合、SSIDが表示される場所に2つの — が表示されます。

また、クライアント画面には、上の画像にあるAirCheck G3のアイコン  のように、NetAllyテストの特定のアイコンが表示されます。

クライアントカードをタップすると、詳細画面が表示されます。

クライアントの詳細画面

Wi-Fi - クライアント

192.168.3.47

Wi-Fi クライアント

アドレス

IP: 192.168.3.47

MAC: [localAdm:16f03e-71124d](#)

802.11

チャンネル: [36 \(80 MHz, 36 - 48\)](#)

タイプ: ax

信号強度: -47 dBm

SNR: 42 dB

AP: [Buffalo:d42c46-c31a8b](#)

SSID: [TOYO-WAP01](#)

BSSID: [Buffalo:d42c46-c31a82](#)

セキュリティ タイプ: WPA2-P

最終検出: 14:34:22

RFとトラフィック統計

CH使用率: 9%

接続されているクライアントのクライアント詳細カードには、以下の情報が表示されます：

- クライアントのIPアドレスとMACアドレス
- ユーザーが割り当てた認可ステータス（設定されている場合）
- 対応する802.11タイプ
- 信号対ノイズ比（SNR）の測定
- クライアントが接続されているAPの名前
- クライアントが接続されているネットワークのSSID
- クライアントが動作しているBSSID
- ネットワークセキュリティタイプ
- クライアントがAirCheck G3によって最後に認識された時間

プロービングクライアント

クライアントがWi-Fi**プロービング・クライアント**の場合、詳細画面ではAPの詳細が置き換えられ、**Probes For**フィールドにクライアントがプロービングを行っているSSIDのリストが表示されます：

**localAdm:fa80ac-02f15d**

Wi-Fi プロローピング・クライアント

アドレス

MAC: localAdm:fa80ac-02f15d

802.11

チャンネル: **64**

タイプ: --

信号強度: -82 dBm


SNR: --

最終検出: 13:29:39

Probes For: Business-AirportTakeshiba,
Business-AirportTakeshiba-R12, F660A-NeZQ-G,
F660P-eCeX-A

クライアントのRFとトラフィック統計

RFとトラフィック統計カードをタップすると、RFとトラフィック統計画面が表示されます。この画面では、画面上部にクライアントのIDまたはアドレスとチャンネル番号が表示されるほか、各情報のグラフが表示されます。

グラフのズームは、スワイプ、ダブルタップ、各グラフ下のスライダーの移動で行えます。完全なグラフに戻るには、復元アイコン  をタップします。

この画面の共通要素の説明については、**Wi-Fiの詳細画面のRFとトラフィック統計の概要**を参照してください。



信号強度グラフは、**信号強度**が水色、**ノイズ**が紺色で表示され、SNRが算出されます。

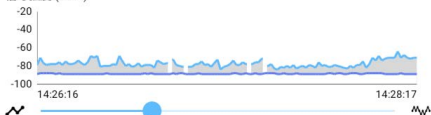
チャンネル使用率グラフは、水色で**802.11**チャンネルの使用率を、紺色で**非802.11**の使用率を表示します。

クライアントが一貫して送信をしていない場合、クライアントの**RFとトラフィック**のグラフに途切れが生じることがあり、その時間帯はAirCheck G3が表示するデータが存在しません。

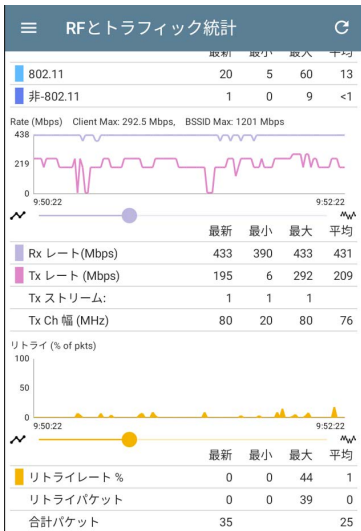
Google:b02a43-94d104

チャンネル: 36 (80 MHz, 36 - 48)

信号強度 (dBm)

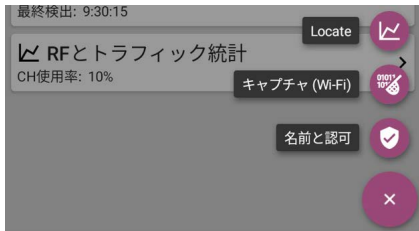


クライアントのRFとトラフィック統計詳細画面では、送信(Tx)および受信(Rx)レート(Mbps)、Txストリーム数、Txチャンネル幅(MHz)のグラフも表示します。



クライアント FAB


クライアント詳細画面のFABをタップすると、クライアントデバイスを探す**Locate**、クライアントデバイスを行き来するトラフィックの packets **キャプチャ**を記録、名前と認可を割り当てたり変更したりできます。




- **Locate**を選択すると、**端末の位置特定画面**が表示されます。[Wi-Fiデバイスの位置特定](#)を参照してください。
- **キャプチャ**を選択すると、クライアントのチャンネルとMACアドレスが入力された**キャプチャアプリ**が開きます。キャプチャアプリの章を参照してください。
- **名前と認可**を選択すると、**名前と認可ダイアログ**が表示されます。[デバイスに名前と認可を割り当てる](#)を参照してください。

Bluetooth

Bluetooth一覧画面には、ワイヤレスネットワークで動作していることが確認されたすべてのBluetoothデバイスが表示されます。

NOTE: この一覧画面では、BluetoothがAirCheck G3のシステム設定で有効になっている必要があります。確認するには、画面上部のステータスバーから下にスワイプしてシステムの通知パネルを開き、Bluetoothが無効になっているアイコン  が表示されているかどうかを確認します。

無効の場合、アイコンをタップしてBluetoothを**オン**にし、Bluetooth対応アイコン  を表示します。

Bluetooth (63)		🔄	⋮
↑↓ 信号強度			▼
✱ CCAA93-566819	-42 dBm	-42 dBm	> Apple, Inc.
✱ 7FBA06-0194EF	-42 dBm	-42 dBm	> Apple, Inc.
✱ DD9BFF-64A321	-43 dBm	-43 dBm	> Apple, Inc.
✱ 37E52B-108AD7	-46 dBm	-46 dBm	> Microsoft
✱ EE73EE-7C3C9B	-48 dBm	-48 dBm	> Apple, Inc.

一覧をソート **↑↓** により、表示されるBluetoothデバイスの順序を決定することができます。詳細については、[Wi-Fiアプリのソート](#)を参照してください。

デフォルトでは、Bluetoothデバイスは信号強度順に並んでいます。各カードには、デバイスのアドレス、信号強度(dBm)(右上)、会社名(右下)が表示されます。

NOTE: AirCheck G3は、デバイスが 1分以上表示されない場合、非アクティブと判断します。

これらのデバイスは、Bluetoothデバイスの詳細画面にグレーのタイトルテキストと信号強度の値で表示されます。

デバイスが引き続きアクティブでない場合、AirCheck G3はそのデバイスをリストから削除します。

タップし、Bluetoothデバイス詳細画面を開きます。

Bluetoothデバイス詳細画面

 Wi-Fi - Bluetooth デバイス

 **6EEA2B-07EB58**

Bluetooth デバイス

アドレス: 6EEA2B-07EB58

RSSI: -44 dBm

会社

名前: Apple, Inc.

ID: 76

Beacon タイプ: 無し

Tx パワー: --

通知

フラグ: 一般に検出可能, 同時コントローラ, 同時ホスト

データ: 02011a020a040bffa001006011aef061b4a

最終検出: 15:04:16

Bluetoothデバイス画面には以下のような表示がされます:

- アドレス
- RSSI

- 会社名とID
- Beaconタイプ (Eddystone-UID、Eddystone-URL、iBeacon、または無し)、ビーコン固有情報 (Beaconタイプによる)、および送信電力 (該当する場合)
- 通知されたフラグまたはデータ
- 最終検出